

三宅島の火山活動 令和7年1月

✓ 火山活動の状況

地震活動及び噴煙活動は低調で、火山ガス(二酸化硫黄)¹⁾の放出量も極めて少ない状態が続いていますが、主火孔周辺の地熱域では2022年以降、温度の上昇や放熱率の増加傾向が認められます。また山体浅部の膨張を示す地殻変動は2023年に入り停滞していますが、山体深部の膨張を示す傾向は続いており地下のマグマの蓄積が進んでいると考えられます。2000年の噴火以降の中長期的なマグマの蓄積や地熱の上昇傾向からみて、今後火山活動が活発化する可能性があります。

✓ 警戒すべき事項

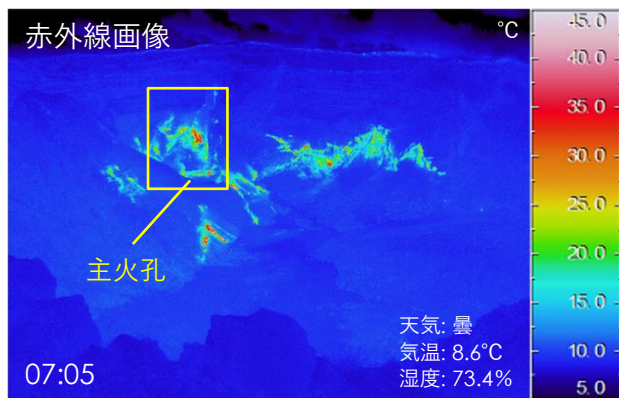
火口内での噴出現象が突発的に発生する可能性があります。山頂火口内²⁾及び主火孔から500m以内では火山灰の噴出に警戒してください。

✓ 噴火警戒レベル

現在の噴火警戒レベルは1(活火山であることに留意)です。

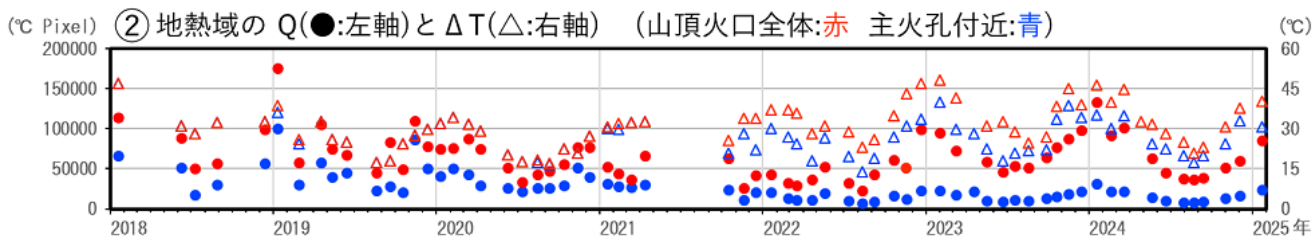
山頂火口内の状況

- ✓ 主火孔周辺では噴気や地熱域が観測されています
- ✓ 主火孔の噴煙活動は弱いながらも続いており、火口内では突発的な噴出現象が発生する可能性があります



現地観測の結果 (2025年1月21日)

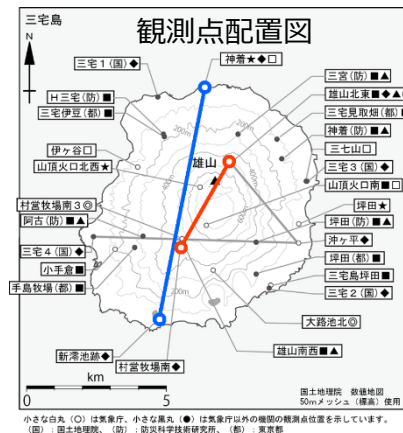
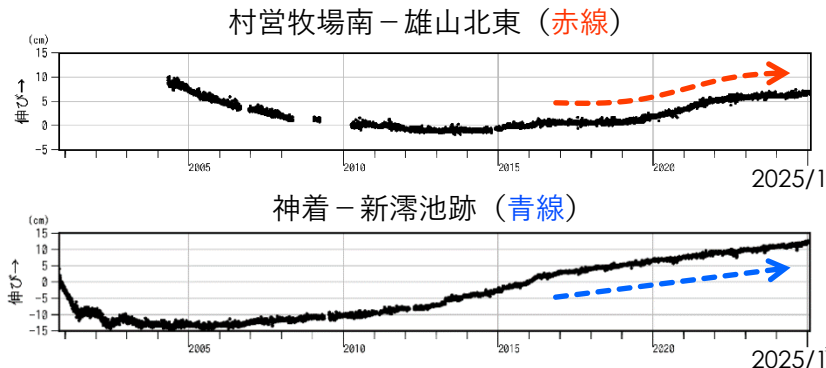
山頂火口内の地熱域の状況



※ ΔT は最高温度と非地熱域温度の差、Qは高温域の画素毎の温度の積算値を示しています

- ✓ 山頂火口全体の地熱域では2022年以降、 ΔT (温度)の上昇やQ(放熱率に相当)の増加傾向が認められます(上図の赤色●△)
- ✓ 主火孔付近(2P下右図の黄色枠内、上図の青色●△)ではこのような傾向が小さいことから、主火孔周辺(2P下右図の黄色枠外)の地熱域で温度上昇や放熱率が増加していることを示しています

GNSS連続観測³⁾による地殻変動の状況



- ✓ 赤線の距離の伸びは山体浅部、青線の距離の伸びは山体深部の膨張を示していると考えられます
- ✓ 浅部では2023年頃から膨張が停滞している一方、深部では膨張は2006年頃から続いており、山体深部ではマグマの蓄積が進んでいると考えられます

用語の解説

火山ガス (二酸化硫黄)¹⁾

火口から放出される火山ガスはマグマが浅部へ上昇すると放出量が増加します。火山ガスの成分はマグマに溶けていた水、二酸化炭素、二酸化硫黄、硫化水素などです。気象庁では、これら火山ガス成分のうち、二酸化硫黄の放出量を観測し、火山活動の評価に活用しています。

山頂火口内²⁾

山頂火口内とは、雄山山頂にある火口及び火口縁から海岸方向に約100mまでの範囲を指します。

GNSS連測観測³⁾

GNSSとは全球測位衛星システム(Global Navigation Satellite Systems)の略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。山頂を挟んでGNSS受信機を置き(この2地点間を基線と呼んでいます)、その距離が伸びた場合に山体が膨張、縮んだ場合に山体が収縮していると考えます。

✓ 三宅島の火山活動解説資料 (令和7年1月)



詳細は「三宅島の火山活動解説資料 (令和7年1月)」
(2月10日発表) をご覧ください

気象庁HP (右上のQRコード、または「三宅島の火山活動解説資料」
で検索) の他、村役場玄関のパンフレットコーナーにも置いています

✓ お問い合わせ

三宅島火山防災連絡事務所

東京都三宅島三宅村阿古497番地 (三宅村役場臨時庁舎3階)

電話: 04994-5-0980

受付時間：平日の8時30分から17時15分まで

休日や夜間の電話によるお問い合わせは、
自動的に気象庁火山監視・警報センターに転送されます